

茅野市

防災カードを作成

ガイドも 外国籍市民向け

茅野市は外国籍の市民向けに6カ国語の防災カードと、壁に張る防災ガイドを作った。カードは携帯してもらい、被災時に提示すれば必要な救援が受けやすくなることを想定。2006年7月の豪雨災害を機に、支援団体から作成の要請があった。同市は東日本大震災の発生で、必要性がより高まったとみている。

中国語、ポルトガル語、タガログ語、英語、ハンガール、



茅野市が作った携帯用の防災カード(上)と、壁に張る防災ガイド

スペイン語の6言語版を作成。カードは四つ折りすると名刺大で、表に「避難所に連れて行って」「火事です。消防車を呼んで」などの文言が各国語と日本語で書かれている。裏には日本語が話せる知人や家族の電話番号、持病、母国語を通じる支援者が必要としているかどうかなどを書く欄がある。

A3判のガイドは、避難勧告の指示に従うことや、非常

時に持ち出す品の用意などを呼び掛ける内容。避難所には共同生活のルールがあることも記した。

市は、市内を中心に外国人支援をしているNPO法人「ねこじやらし茅野」や外国人相談員と内容を検討。「内容を詰め込み過ぎると読まない」と、簡潔さを心掛けた。

カードは2千枚、ガイドは千枚印刷。市内に住む外国人約930人(3月末時点)のうち、言語の面では少なくとも、86%の人に対応できるといふ。公共施設やスーパーなどにチラシを置いて告知し、市防災対策課の窓口で渡す。

問い合わせは同課(☎72・2101)か、ねこじやらし茅野代表の岡元春美さん(☎72・0502)へ。